

I. 現状認識

日本は世界一お金持ち国

- ◎ 一人当たり 900 万円の借金は国ではなく **政府の借金**
- ◎ 国=政府ではなく、国=**政府+民間**
- ◎ 日本政府に貸しているのはほとんど日本の民間
- ◎ 政府+民間=日本=**世界一の純資産国** (右表参照)
- ◎ **29年間**連続世界一の純資産国

なぜそんなに資産が多いのか？

- ◎ 戦後、輸出主導で**貿易黒字**を稼ぎ続けて貯めた
- ◎ 実際は円ではなく約 3 兆ドルの**外貨**
(輸出も輸入も**ドル決済**、黒字もドルで貯まる)

全くピンと来ないのはなぜ？

- ◎ 稼いだ黒字は外貨なので全て**海外に投資**
- ◎ 投資は海外で使われ、日本国民は何も受け取れない
→ 何の恩恵もないから実感できない

ピンと来ないどころか経済的に困窮する本当の理由は

- ◎ **1985年プラザ合意** → 二倍以上の**円高**に
=日本人の給料が国際的に二倍以上に
(時給 1000 円の人は \$1=¥200 だと時給 5 ドル、
\$1=¥100 だと時給 10 ドル)

- ◎ 同じコストで作れば**輸出価格**は二倍以上に

- ◎ **コストカット**で無理やり輸出価格を下げ、輸出し続けた→ 3 兆ドルの黒字 (純資産) → 全て海外に投資

- ◎ コスト=誰かの売り上げまたは給料 (これをサービス残業という名のタダ働きなどで無理やりカット)

- ◎ 従来通り給料を受け取ってれば 3 兆ドルも黒字が貯まるほど輸出できなかったはず

※ **3兆ドル**=300兆円 (\$1=¥100 換算) ~ 600兆円 (\$1=¥200 換算) 分の日本国民の**タダ働き分**

結論 1: 1985 年以降、輸出主導型の戦後復興経済を止め、内需拡大型の経済に転換すべきだった

II. 財政金融の真実

政府の借金の本当の理由

- ◎ 政府の無駄使いや税収が足りないせいではない
- ◎ 税金を上げてても支出を削っても絶対に解決不可
- ◎ 本当の原因は**現代のお金の発行の仕組み**

現代のお金の発行の仕組み

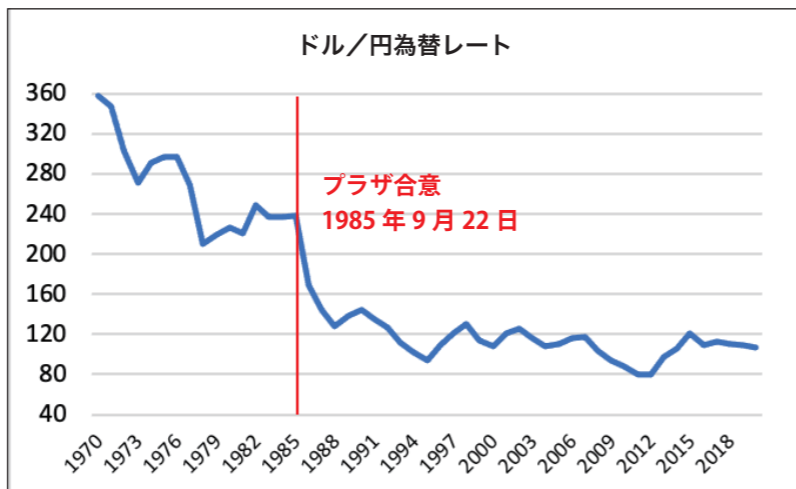
- ◎ **信用創造=借金でお金を作る仕組み**

現在、日本には 1000 兆円以上のお金がありますが、現金は 100 兆円ぐらいしか存在せず、900 兆円以上は預金通帳に書かれた数字です。つまり、現代のお金の本質とは**預金**であって、**預金を増やすこと=お金の発行**であり、それは日銀の仕事ではありません。一般の**民間銀行**の仕事です。

銀行が誰かにお金を貸す時には、その人に自行の通帳を持たせ、そこに貸す金額を印字します。例えば 100 万円を貸す時には、預金通帳に 100 万円と書くだけです。この時に、新たな 100 万円の預金が生れます。なぜなら、その銀行に預けられた他の誰の預金通帳の残高も減らず、借りた人の通帳に新たな 100 万円が印字されるからです。借りた本人は 100 万円の借金を背負っているのですが、お金が増えた気はしませんが、それを誰かに送金すれば、受け取った人は純粋に預金を増やすことになります。

主要国の対外純資産 (平成 30 年末)	
日本	341 兆 5560 億円
ドイツ	260 兆 2760 億円
中国	236 兆 779 億円
：	：
アメリカ合衆国	▲1,076 兆 9500 億円

(出所) 日本：財務省資料、その他：IMF 資料



実は皆さんの預金は全てこのように作られており、**誰かの借金**が回ってきているだけなのです。もし 100 万円を借りて使った人が、それを再度稼いで 100 万円の預金を作り、それで借金を返せば、世の中から 100 万円を取り返し、自分の借金と相殺で消すこととなります。つまり、現代のお金は**借金として生まれ、借金を返すと消える**という仕組みです。

しかし、問題は借金には常に**金利**がつき、返すの元本だけではないということです。もし 5% の金利で借りれば、一年後には 105 万円を返さなければなりません。お金を借りた人は全員、元本分のお金しか世の中に生み出していないのに、金利分余計に集めて返さなければならないのです。そして、本当に全員が返してしまうとお金が全て消えてしまいます。つまり、お金を借りた人がきちんと元本+金利を返済し、なおかつお金がなくならないためには、それに匹敵する新たなお金 (105 万円) が、やはり新たな借金によって生まれる必要があるのです。当然それにも金利がつき、さらに多くのお金が必要になりますから、**無限にお金と借金が増え続けないと回らない**仕組みです。そんなことが続くと思いますか？

実際どうなったかはデータを見れば一目瞭然です。右上の図は 1980~2018 年までの「**日本のお金の総量 (マネーストック M2**



=現金+預貯金 (青)」、「銀行の民間への貸出残高 (緑)」、「GDP (茶)」そして「**日本政府の借金 (国債) の残高 (赤)**」の日銀データのグラフです。これを見ると正に 1990 年代前半までは銀行の民間への貸出でお金が作られていたことがわかります。**民間への借金 (緑) がお金 (青) を作っている**ので、両者は並行して上がるのは当然です。しかし、1990 年代後半以降、両者は大きく乖離を始めます。これはバブルが崩壊し、GDP (茶) も伸びなくなれば当然の話で、銀行も貸せなくなるのです。そもそも無限に続く経済成長もあり得ませんし、人口も増えなくなれば永遠に借金を増やすことなど不可能なので、それでもお金と借金を増やし続けなければ回らない金融システムを続けるには、最終的には**政府が借金をしてお金を発行**することになります。政府なら

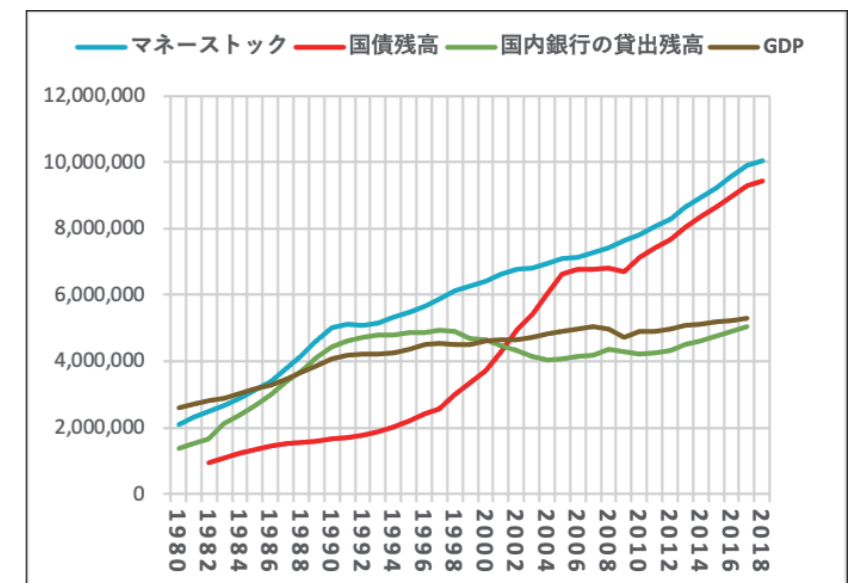
銀行も安心して貸し続けられるからです。政府の借金でお金が発行されるメカニズムは**信用創造**と同じです。銀行が政府の国債を買ってお金を貸しても、銀行に預けた皆さんの預金残高は決して減ることはなく、**銀行が新たなお金を作って**政府に貸します。政府が皆さんから集めた税収に加え、自らの借金で銀行に作らせたお金を合わせて使えば、その分皆さんは払った税金より多く受け取ることになるのです (公務員の給料や政府事業の代金として)。したがって、**政府の借金と皆さんの預金は並行して増えます**。グラフを見れば一目瞭然、**緑の線 (民間への貸出) が青の線 (お金の総量) を支えきれなくな**ってから急激に**赤の線 (政府の借金) が上がり**、この 15 年ほど、**赤と青の線が平行して上がっている**がわかります。つまり、政府の借金でお金が発行され続けてきたということです。そしてこれは当然の帰結なのです。なぜなら、無限に民間に対する貸出を増やすことが不可能な以上、最後には政府がそうせざるを得ないので。その結果、今や皆さんのお金が約 1000 兆円、政府の借金が約 900 兆円。こうなったら二度と**政府の借金は税金では返せません**。なぜなら、皆さんのお金が 1000 兆円しかない中、900 兆円の借金を返すために 900 兆円の税金を払えば、ほとんどのお金は消えるからです。繰り返しになりますが、**現代のお金は借金として生まれ、借金を返すと消える仕組み**です。つまり、その仕組みを続ける限り、政府の借金を税金で返す選択肢はあり得ず、むしろ**増やし続けなければならない**のです。

結論 2: 「今の金融システムを維持するには」政府の借金は増やし続けなければならない (新しい常識)

III. 私たちが今すぐやるべき政策

- **政府が借金を増やしてお金を使う**
- **特にお金を直接配る→まず一人 100 万円**
- **内需を拡大する**
 - ・ **未来への投資 (大学まで教育費の完全無料化、持続可能な経済へのインフラ投資、子育て補助金として未成年一人あたり月 5 万円支給)**
 - ・ **農林水産業振興による食糧自給率向上**
 - ・ **ベーシックインカム支給**
- **内需拡大のための障害の除去**
 - ・ **消費税廃止、高速道路無料化、インフラ再公営化、土地の公有化、銀行 ATM の無料化**

※**国家経営の本質**とは、国民の**時間と労力**、国内の**資源**という**実体リソース**をいかに有効に使い、本当に大事なことのために役立てるかです。お金はいくらでも作れますし、いくら使っても国内をグルグル巡るだけです。逆に皆さんの貴重な時間は何もしないとどんどん失われます。ですから、皆さんの活動を阻害する障害を最大限除去し、いかに活性化させる



かが大事なのです。そう考えると消費税やインフラの民営化など、人の活動を低下させる政策など言語道断、**消費税撤廃、高速道路無料化、インフラの再公営化、銀行 ATM の国営化による無料化**などが当たり前の政策なのです。

IV. 究極的にすべきこと

私たちが究極的にすべきことは、借金でお金を作るという狂った仕組みを世界的に変えることです。世界中が借金とお金を無限に膨らませ続け、そのために無限の拡大生産、拡大消費を続ければ我々はいずれ破滅します。**政府通貨の発行**により、**誰の借金でもないお金**が発行できることを日本が世界に示し、一刻も早く世界中を無限借金地獄から解放すべきです。

V. 最初に踏み出すべき一歩

残念ながら、既存の政治家や政党には問題の本質が全く見えていません。我々が今すべきことは、資本主義や金融システムという大きな仕組みを世界的に変えることです。いかに大変だろうが、どこからか、誰かが始めないと何も変わりません。千里の道も一歩から。この**神奈川4区**から、**大西つねき**と共に、その**最初の一歩**を踏み出してみませんか？